

島本町立第三小学校 学校だより 平成30年9月臨時号

〒618-0022 大阪府三島郡島本町桜井二丁目 25-1
TEL 075-962-2521 FAX 075-962-2522 URL <http://www.shimamoto-ele03.ed.jp>

全ての教科で言葉の力の育成を

このたびの台風21号に係る映像を見て、身がすくむ思いでした。横転するばかりか飛ばされてしまった乗用車、なぎ倒された電柱、崩れた工事現場の足場……。日頃私たちの生活を支えるものを、風は一瞬にして凶器に変えてしまうかのようでした。本校は、翌日から通常通り授業を開始することができ、そのことに安堵するとともに通学路の点検、情報提供等、地域・保護者の皆さまにご協力いただいたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、本校では、国語科を中心に言葉の力の育成を目標に掲げております。が、そのためには国語科のみならず、教科の枠を越えて意識的に取り組む必要があるのは言わずもがなです。その具体例として、算数科の実践を紹介します。

授業風景 ～episode 2～

「合同な図形」(5年 算数科)～1学期の実践より～

本単元の活動では、児童にとって身近な「サッカーボール」を例に挙げ、既習事項である三角形と四角形の内角の和の求め方を活用して五角形、六角形の内角の和を求める内容を設定しました。新しい内容を学習するときに既習事項を活用することで全員が参加しやすくなるという効果もねらっています。



国語科との関連



論理的に考え説明するために「まず」「次に」「最後に」「だから」等の接続詞を意識して、自分の考えを整理しました。また、異なる図形の類似点・相違点を探るため「比較する」、作図の「順番を考える」、「結論を先に示す」「観点をはっきりさせて説明する」等は、国語科及び他の教科にも必要とされる思考方法であると思います。

伝える・つながる

本単元では「伝える」力の育成のため、一人で考えた内容を教室内を移動し、3人の友だちに説明しサインをもらうという活動も取り入れています。全員が説明し聞きあうことにより、自分の考えと比較することができます。伝え合う中で自分の考えが更に明確になることやどう考えたのかという過程を大切にしたいと考えています。また「学び合い」ということも意識し、相手の話を自分の考えと比べ、納得できるかを考えながら聞く姿勢も、全ての教科で育てていくことをめざします。



4年生の算数でも複数に伝え合う活動を

授業風景 ～episode 3～

「ようこそ、私たちの町へ」(6年 国語科)～1学期の実践より～

夏休み作品展で、6年生のコーナーに並べられた島本町を紹介するパンフレットをご覧になられた方々もおられると思います。あのパンフレットは、6年生が「効果的な構成や材料の配置、記述を考えて編集し、事物の良さを多くの人に伝える」ことを目標として、町の良さを伝えるために作製したものです。島本町をよく知らない人に「他の土地にはない良いところを知ってもらおう!!」それを意識しながら取り組んだものです。



パンフレットは全部で17冊。取り上げる内容も様々で歴史や施設を中心に上げたもの、グルメにウェイトを置いたもの、島本町マスコットキャラクター「みづまるくん」を詳しく紹介したもの……。島本町ならではの持ち味や良さを、あらためて教えてもらったように思います。レイアウトや見出し、キャッチコピー等もそれぞれに工夫が凝らされ、子どもたちにとって、生き生きした学びの場であったことがうかがえます。

～地域の方々のご協力、ありがとうございました～

また、今回の取組みにあたっては取材活動も取り入れており、アポイントメントから子どもたちが行いました。(緊張した面持ちで取材先へ電話する子どもたちの様子が微笑ましかったです。)地域の方々にはたいへん優しく丁寧に対応していただき、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。きっと卒業してからも、島本の豊かな自然に囲まれ人々のあたたかい思いに包まれて育った思い出のひとつとして、子どもたちの中に残ると思います。

不審者対応訓練(教職員研修)を実施

9月5日(水)に、講師として高槻警察署の方に来校いただき、不審者が校舎内に侵入した時の対応について実践を通して学びました。教室で学習中、不審者(高槻警察署員)が校舎内に侵入したことを想定し(職員が教師役、児童役に)、凶器を持って教員・児童に襲いかかった時どう対応するのか各自が考え行動する、という内容でした。

職員はたいへん緊張感を持って臨み、その様子を撮ったビデオを再現しながらの講師のお話に、積極的な質問もたくさん出ました。講義の中で大きな声を出して他の人に知らせること、いかに情報を職員間で共有するか、不審者に対しては複数で対応すること等の他に「さすまた」の効果的な使い方も教えていただきました。今後も引き続き、危機管理について研修等を通して学ぶことの必要性をあらためて感じた有意義な時間でした。

